

保育所ニュース

取り組み報告やニュースを送ってください。

FAX: 03-3875-6270 e-mail: n=ask@irouren.or.jp

保育所交渉 6月27日

「補助の拡大や増額は都道府県に」

2014年度から、保育所補助は新たな財政支援制度（基金）の枠組みに



山田委員長から要請書提出

6月27日、日本医労連は「院内保育所の充実」を求め、厚労省交渉を実施しました。交渉には日本医労連保育所対策委員、各組織の保育担当者等17人が参加、厚労省からは医政局、雇用均等・児童家庭局から8人が対応しました。

日本医労連から院内保育所運営補助の増額を求めたところ、厚労省は、「これまで院内保育所補助は全国一律の基準で補助していたが、2014年度か

らは新たな財政支援制度（基金）から実施するスキームに変更になった。補助対象の拡大や増額に対するご要望は都道府県にご相談いただきたい。」と回答しました。

基金は消費税増税で創設されたもので、全国で904億円が計上されています。厚労省は各都道府県から事業計画などをヒアリングして、11月くらいに交付決定するとしています。交付金の内訳は都道府県の裁量となるので、私たちの働きかけが重要となります。

「院内保育所がなければ、医療は守れない。」



「病院職員、24時間保育や休日保育、産休明け保育などあるから、働き続けられる。医師・看護師不足の実態理解しているか」

「厚労省が出した『5 局長通知』『6 局長通知』の趣旨を尊重してほしい。福利厚生で片付けてほしくない」

「震災時、医療にあたる医師・看護師を支えたのは院内保育所。地域の保育所が休園する中で地域の子どもも含めて保育を続けた。院内保育所がなければ医療は守れない。」

予算が都道府県に移っても、院内保育所が役割を果たせるよう厚労省としての責任を求めて交渉を終了しました。



楽しい2日間でした。仲間とつながること、声を出し、目を合わせ、ふれあうこと、本当に大切だと思いました。

第36回保育所会議

6月28日29日 ハートピア熱海



池添素先生

6月28日(土)29日(日)ハートピア熱海で第36回院内保育所会議を開き、44人が参加しました。1日目は、NPO法人福祉広場理事長の池添素さんより「気になる子の保育と親とのかかわり」と言うテーマでお話しいただきその後、基調報告、特別報告を受けて分散会と、18時までびっちり詰まったスケジュールでした。2日目はキッズスマイルカンパニーのネイチャーこと大河内康弘さんから2時間実技研

修を受け、その後開いた全体集会は車座になって全員が感想を語り合いました。涙あり、笑いありで終了時間も忘れる全体会となりました。



涙あり、笑いありの全体集会

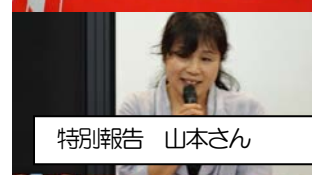
池添先生の講演を聞いて

「子どもばかりを変えようと思わず、まず自分が変わることを目標にしていきたいです。」

「「気になる子」=手のかかる子ではなく、その子がどうすれば自分らしさを発揮できるかの手だてを一緒に考えていきたいです。」



特別報告 北垣さん



特別報告 山本さん

特別報告

北垣さんからは青いとり保育園を直営にして安心して働き続けられる保育所に、山本さんからは全医労の取り組みが報告されました

分散会に参加して

「色々な園の話を聞いて戻って伝えたいこと、勉強になったことたくさんありました。」
「看護師さんの労働を支えるとともに、そこで働く保育士・子どもたちの人権も守って保育していかなければと思いました。」



ネイチャーこと大河内康弘さん



みんな真剣に、まじめに

実技研修を受けて

「本当に楽しめた！親子遊びの予定があるのでぜひやりたいです。」
「今すぐ子どもたちに伝えてあげたいことがいっぱいです。」

夕食交流会も盛り上がりました

夕食交流会は保育対策委員の古澤さんが〇×クイズをしてくださいました。「サザエさんの結婚前の職業はエレベーターガールである」正解は×で、会社員だそうです。正解者に賞品があり、ひとりで4つも獲得した人もありました。



〇×クイズの古澤さん

